

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

中学で部活動をしています。

先日の大会で起こったことです。私はネットプレーヤーでパートナーがレシーブでした。3ポイント目のレシーブの時、相手のペアの第1サービスはカットサービスでした。そのボールがネットに当たり跳ねてわたしの方に飛んできました。私は自分のサービスコートの中にいましたが、そのボールが当たるのを避けようとしてパートナーのサービスコートに入ってしまった。サービスされたボールは私がサービスコートに入った後に私の方のサービスコートに落ちましたので、フォルトだと思いました。ところが審判は「インターフェア」とコールして私たちのペアの失ポイントにしました。私は「フォルトじゃないですか?」と質問しましたが、「レシーブをするプレーヤーがレシーブを終わる前に、パートナーがそのサービスコートに入ったのだからインターフェアになります。」と言って聞き入れてくれませんでした。サービスが入っていないのに「インターフェア」になるのでしょうか。

Answer

「レシーブ時の失ポイント（インターフェア）」とサービスの「レット」について理解しましょう。

- ①正しくサービスされたサービスにレシーブをするプレーヤーがレシーブを終わる前に、パートナーがそのサービスコートに触れた場合は「インターフェア」で失ポイントになります。競技規則第30条（4）
- ②サービスされたボールがネット又はネットポストに触れた後、そのボールがコート、アウトコート、審判台又はフェンス等に触れる前に、レシーブをするプレーヤーのパートナーがサービスされたボールが入るべきサービスコートに触れた場合は、レットになりそのサービスのやり直しとなります。競技規則第26条（2）③

この度の質問は、過去にさかのぼってもまれな事例で、とても考えさせられるよい質問で多くの方が関心を示し、“なるほど”と思うヒット質問だった様に思います。

ところで、アンパイヤーをされた方は、レシーブが終わらない内にレシーブでないプレーヤーが、レシーブをするべきサービスコートに入ったので「インターフェア」であると思いこんでおられ、他者から何を言われても「インターフェア」とコールしたようですね。ところが、レシーブをするプレーヤーはサービスしたボールがネットに触れたわけですからレシーブをする状況にありません。また、質問をされたネットプレーヤーさんは、サービスされたボールはネットに触れた

後サービスコートに入らなかったのに、「フォルト」ではないかと主張された様ですが、サービスしたボールがサービスコート以外に落下する等フォルトが成立するまでに、自分がパートナーのサービスコートに入った事を見逃し「フォルト」ではないかと質問されたようです。確かに、自分がパートナーのサービスコートに入っていないければ、フォルトになったはずですが、アンパイヤーは、そのことは理解しておられた様ですが、レシーブをするプレーヤーがレシーブを終わる前にパートナーがサービスコートに入った事がとても印象に残っており、「インターフェア」と判断されたのも無理からぬことです。この様にとても複雑極まる事が瞬時に重なって起きた問題だけに考

えさせられる事例であったと思います。そこで、アンパイヤーが「インターフェア」と判断された事は大変な勇気が必要だったと敬意を表します。

しかし、今回の答えは、アンパイヤーの判定を下した「インターフェア」でもなくネットプレーヤーが罰則だと思った「フォールト」でもなく、サービスされたボールがネットに触れた後の状況によって判断する問題で、競技規則第26条(2)の③により「レット」と判定するのが正解となります。

今回の様な場合は、コート主任がおればコート主任に相談し、アドバイスを頂くか、それでも解決しなければ提訴することが出来ますのでレフェリーにお願いして解決する方法をとることをお勧めします。そしてお互いにこのような問題が起きた時には、ソフトテニスハンドブックを繰り返しよく読み返して見る事が必要である事に気付かれた事と思います。どこかに答を引き出す糸口が見つかるはずです。今後のお願いですが、皆さんソフトテニスハンドブックを持ち歩き、学習を忘れない様にしましょう。

【関連規則】

競技規則第26条(サービスのレット)第1項(2)イ③、第2項

競技規則第30条(レシーブ時の失ポイント)第1項第4号

ジュニア審判マニュアル

競技規則について

7. サービス(6) サービスがレット(そのサービスのやり直し)となるのはどんときか? ②(ウ)、④

8. レシーブ(2) レシーブでポイントを失うときはどんときか? ④

